

令和3年10月柏の集い案内

宣 言

天風会の目的は、いつも愛と誠の心をもって生き、
お互いに思いやりの気持で 助け合う兄弟姉妹の
数を殖やし、それによって世界の真の平和を確立
することである。

天 風 会

爽やかな季節を迎え、皆様にはますますお元気でお過ごしのことと拝察申し上げます。コロナ禍で何かと制約の多い時に、米津千之先生のお言葉を拝借させていただき、哲人天風とその教えの一端をご紹介します。「100年の人生で垣間見た歴史に燦然と輝く5人に生き方」より抜粋。

ウチの近くに住んでいた画家の奥さんが「護国寺に中村天風先生という素晴らしい方がおられる。一緒に行ってみませんか」と誘ってくれたのがきっかけです。あまりにも熱心に誘うもんだから、根負けしてしまって。今ではその奥さんに大変感謝しています。

講演会の席上「我とはなんぞや？」と天風先生はいきなり言われましてね。ボクは天風先生の真正面に座っていたので、ボク一人に問いかけているような気がしました。

「我となんぞや？ 体が自分だと思ったら違うよ。もっと大事なものは心なんだ。じゃ、心かといったら、心でもない。それは靈魂なんだ。」

みんなポカンとしていた。靈魂だといわれても、わかりっこない。ボクは誰よりも神様の研究をしてきたとの自負があるから、天風先生言われた靈魂について、他の人よりはわかりが早かった。

「おまえたちは、まず自分とは何かを、ちゃんと知らなければいけない」と、そして、人間はだれしも「尊く、強く、正しく、清かれ」と言われ、恒に、「明るく、朗らかに、生き活きと、勇ましく」とも言われた。

そして靈性の傘下に心身をおくための具体的な「心身統一道」を教えていただきました。ともかく、先生のお話を聴いた帰り道は、心が晴れ晴れとして気持ちが良かったですね。

天風先生は、いつも澀刺・颯爽、にこやかな笑顔は天下一品でした。でも、天風先生は、この笑顔づくりを常々鏡に向かって練習されていたのです。

「毎日、自分を鏡に映してみても、もし自分が渋い顔をしていたら『笑え！』と言って、ニコニコ顔をつくったもんだよ」。まさに先生は、一生を修行に生きられた方でした。

我等の誓いの「怒らず、怖れず、悲しまず」、「正直、親切、愉快地に」を三行三行と行って、天風先生の教えの中でも非常に大事なものです。これさえ日常生活でできるよ

うになれば、もはや「人生の達人」ですが、これがなかなか出来ない。
天風先生こそ、まさに人生の達人であり、ボク自身の目標であり、人間の理想だと考えているんです。ボクは、天風先生を通じて原始生命体の力に気づき、そこに帰って行くことが出来るのだと考えるようになりました。

天風先生は、「生きていることをただありがたく感謝しなさい！」と言われました。今、どんなに苦しいことがあっても、生きているだけで有り難いんです。先生は「事有るのが人生だ」とお諭になられ、この世に起こるすべてのことは、宇宙霊の働きと見なされました。

天風先生は、有難いことに、霊妙不可思議な宇宙霊を己が身に迎えるための法をご教示された。そして宇宙に限なく遍満存在する生命エネルギーを感謝して思う存分いただければ、びっくりするぐらい健康になり、悩みも吹っ飛んでしまう。

何が起ころうとも、天風先生の「人生は心一つの置きどころ」という教を肝に銘じておくことだ。心の持ち方一つで、地獄も天国になるのだから。

天風先生は「クンバハカ」を無意識にできるようになれと言っています。「クンバハカ」は素晴らしい教えです。クンバハカは肛門を閉め、肩の力をぬき、丹田に力を込める。この三位一体を同時に行うものです。これを日常生活で身につけると、ものすごく健康になります。このクンバハカを身につけてほしいですね。

天風先生が考案された安定打坐法は、心の花園の雑草を刈り取り、無心になる方法です。一日5分でも10分でもいいから静かに坐っていると、交換神経と副交感神経のバランスがとれて、心の安定した生活が送れるようになります。

そのお言葉に接しただけで魂が洗われるような方が、我が師、天風先生なんです。この世は多面的です。金銭は一面に過ぎないし、出世も一面です。大切なことは、天風先生がよく言われた「生き活きと、勇ましく、朗らかに、天与の生を楽しん生きる」ことです。

感謝 川鍋 忠

柏の集い10月勉強会

令和3年10月16日(土) 9時30分～12時

柏諏訪神社

「箴言四」・・・「思ひやり」という事を現実にするには先ず何を措いても
相手方の気持ちになって考へて見る事である

担当 松本喜志男

8、9月お休みしましたが今月から室内行修、叡智のひびき勉強会を再開実施します。
皆様よろしくご参加をお願いします。



柏市 柏の葉公園

《ここにひびくことば》

幸運は、不運の姿をしてやってくる

苦勞の多い人生を歩んだ両親であった。子供の頃からその姿を見てきたが、どのような逆境においても、常に光明を見つめて歩んだ母の姿から、いつか、自分も、人生を絶対肯定する生き方を身につけていた。その母が語っていたのが、この言葉。

いま、七十年の人生を振り返ると、「あの苦勞や病気のお陰で、成長できた」「あの失敗や挫折のお陰で、この道に導かれた」ということが数限りなくある。

もし「大いなる何か」が我々の人生を導いているのであれば、その導きの声は、与えられた逆境の意味を肯定的に解釈する人間にだけ聴こえてくるのであろう。

そこに、人生の深い味わいがある。

PHP 10月号 田坂広志（文筆家、多摩大学大学院名誉教授）

緊急事態宣言が本日解除されます。コロナ感染者は大幅な減少傾向にあり、このまま減少が続き年内には普段の生活に近い形に戻り、行修会も通常の形で行えることを願っています。

令和3年10月1日 編集人 藤本益久

中村天風財団柏の集い連絡所 〒277-0835 柏市松ヶ崎 1077-17 藤本 益久方

TEL, FAX 04-7133-2785 携帯：090-1117-0943 e/mail:spzb8ev9@diary.ocn.ne